

PandA-J の「学習活動」を担った人々

委託研究で実施主体となったのは各地のトラブル・シューター・ネットワーク (TS) でした。TS とは、主として知的・発達障害のある人が地域社会で安全に暮らしていけるよう、触法トラブルなどの修復を中心に障害当事者を支援する福祉、教育、司法、医療関係者等のネットワークです。社会福祉士や介護福祉士など障害福祉事業所関係者、特別支援学校教師や矯正教育施設専門官、弁護士、看護師・保健師・精神保健福祉士などがボランティアに集まって相談・支援にあたっています。

「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」に携わった各地域の TS にはそれぞれ構成員に特徴があります。

北海道石狩 TS の場合は、石狩大地の会 (当事者会) との連携や相談・協議を重視して講座をはじめとした活動を進めており、担い手は社会福祉法人はるにれの里が運営する「地域活動支援センターえみな」の職員が中心になっています。

盛岡 TS の場合は、岩手県発達障がい者支援センター相談員を中心に、岩手県地域生活定着支援センター、障害者職業センター、基幹相談支援事業所、障がい者 110 番、更生保護施設、グループホームなど県レベル機関の職員や弁護士が関わっています。

多摩 TS は障害福祉事業所関係者が中心的な役割を担っていますが、現役教師や教育専門官も講座講師となっています。

新潟 TS の場合は、新潟市障がい者地域自立支援協議会相談支援連絡会の事業の中に「セルフアドボカシー支援」活動が組み込まれて実施されてきた点が特徴です。

しかしいずれの地域も生涯学習機関や社会教育関係者の参加はありませんでした。

図 プログラム展開イメージ

